

自閉症スペクトラムを支援する職員研修会 ～個に向き合う実践を目指して～

認定 NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット
〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目 1-4

助成事業の概要

この職員研修は、自閉症支援の専門家と作業療法士から正しい知識と支援の方法を学び、職員 10 名が同じ視点を持って支援の方略を共有し、個々の子どもの支援につなげるためにスキルアップすることを目的とし、各回講義と事例検討による構成で実施した。

研修Ⅰ～Ⅲ（全 6 回）

■研修Ⅰ「ケースから学ぶ療育における OT の視点」（2 時間）会場：当団体事業所
6 / 29 講師：埴 杉子 氏 / 東北大学大学院
医学系研究科 作業療法士

■研修Ⅱ「障害特性と支援の基本（全 4 回・各 2 時間）」会場：当団体事業所
第 1 回 8 / 6・第 2 回 8 / 10・第 3 回
10 / 31・第 4 回 11 / 29
講師：片瀬 道 氏 / AASEM（宮城自閉症ス
ペクトラム障害支援者を育成・研修する会）
臨床心理士

■研修Ⅲ 11 / 23 会場：仙台市青葉区中央
市民センター
一般公開セミナー「思春期を迎えた発達障がい
のお子さんたちへの支援」（午前 2 時間）
職員研修「事例検討会」（午後 3 時間）
講師：加藤 潔 氏 / 札幌市自閉症・発達障がい
支援センターおがる所長

事業の成果

研修Ⅰ：指先の機能や握る動作についての課題がある事例では、体全体の特徴について指導を受け、細部の機能の発達の前段階として、風船でバレーボールをするなど粗大運動を療育プログラムに取り入れることができた。後半の講義では、体の機能や発育を学び、事例検討の中身がよりいっそう深まった。また、作業療法の視点があることを再確認できた。

研修Ⅱ：障害特性・個人の特性・環境への配慮を常に念頭において、支援の実施と再考を繰り返した。活動を切り替える際に気持ちが乱れる子供の事例では、これまでよりも更に個別の仕切りを設置し、その子のお気に入りの物を置いたカームダウンエリアを確保して活用した。これにより、気持ちを整えることができ、次のスケジュールを確認して活動を切り替えることができた。これは対象児以外の子供にも活用することができた。他に、自分の気持ちを伝えるためのコミュニケーションツールをその子に合わせて作成したり、環境整備についても取り組んだ。問題行動の原因を考察し、評価・課題分析を繰り返して、個々の子どもの自立に向けた支援の必要性を実感することができた。

研修Ⅲ：講義では、思春期における発達障害のおおまかなタイプ別の関わり方のポイントや、性に関すること、進路の選択、本人への障害告知などについて学んだ。事例検討では、思春期特有

の反抗的な態度が見られる子どもに対して、職員の介入が多かったこと、切り替え時の混乱、本人の自尊感情を高めるような課題設定等について指導を受け、普段の療育で取り組むことができた。

学びの機会が少ない新しい職員も、経験のある職員も、この研修会により自閉症スペクトラム支援の基本的な理解が共有された。これにより、普段のアセスメントや療育プログラムの組み立てについて、同じ視点で実行・評価ができ、子供の変化を実感することができた。今後も専門家からの学びを重ねることの重要性を感じた。

放課後デイの他事業所との連携を深め、ケース会議や事例検討会などで、障害の特性理解や個々の特性の把握に努め、一貫した支援を目指す。事業所での支援だけでなく、保護者との協働療育を目指し、来年度からの新規療育事業に取り組む。

成果の広報、公表

第1回6月29日の研修は、会報誌に実施内容を掲載し配布した。全6回終了後、平成25年1月末にすべての回の内容をまとめた報告書を500部作成し、法人会員および関係各所に配布した。会員は、宮城県内をはじめ各地の保護者・支援者。関係各所は、発達障害に関わる行政や民間の支援機関、事業所、支援学校、大学の研究室、宮城県・仙台市内の児童館、仙台市内の市民センターや施設など。また、他の放課後デイ事業所とのネットワーク会議での情報交換の場では、報告書を渡し研修内容をお伝えした。報告書の他に、ブログ虹っ子広場に6月29日・11月23日・11月29日の3回、研修報告を掲載。ブログのアクセス数は、一日150～200件。ホームページでは、11月23日の公開セミナー受講者の感想を公開した。

今後の展開

今回の研修内容を活かして、日頃の職員ミーティングと支援計画、療育プログラムの組み立てを行う。今後も発達障害者支援の専門家を招いての研修会を計画し、また、外部研修に参加する。